

# いちのみやの芸術文化

- 特集 「日本武尊と七つ石」
- 加入団体の紹介
- これからの催し
- 平成21年の展示をみる



2010.3

第12号

一宮市芸術文化協会

「日本武尊剣研石」(部分)

一宮市には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館・木曾川資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

# 日本武尊と七つ石

やまとたけるのみこと

久方ノ 天ノ香具山 利喧に さ渡る鵲 弱細 撓腕を

枕かむトは 吾はすれド さ寝むトは 吾は思へド

汝が著せる 襲ノ欄に 月立ちにけり

(日本武尊の歌)

高光る 日ノ御子 八隅知し 我が大君 あらたまノ

年が来経れば あらたまノ 月は消経行く 諾な諾な諾な

君待ち難に 我が服せる 襲ノ欄に 月立ちなむヨ

(ミヤズヒメの返歌)

共に『古事記 日本思想体系Ⅰ』所収

▼日本武尊宮簀媛命と一別の時形見に宝剣を授たまふ図 (『尾張名所図会』より)



## 日本武尊の東征伝説

やまとたけるのみこと

日本武尊 (『古事記』では倭建命。ここでは便宜上日本武尊に統一して表記) は景行天皇の皇子で、周知のごとく、同天皇の命によって九州のクマソタケル等や出雲のイツモタケルを征伐した後、東国の征討に向かったといわれています。

東国遠征では、まず伊勢に立ち寄り、草薙剣等をヤマトヒメノミコトから賜って、尾張国に入りました。ここで日本武尊は、尾張国造の祖ミヤズヒメと婚約します。

冒頭の二首は、日本武尊が東征に成功し、尾張国に凱旋してミヤズヒメと再会した際に詠んだ歌とその返歌です。そして、日本武尊は草薙剣をミヤズヒメのもとに置いて伊吹山の神の征伐に向いますが病となり、伊勢の能煩野で亡くなったといわれています。



▲市史跡 七つ石

## 戸塚の七つ石

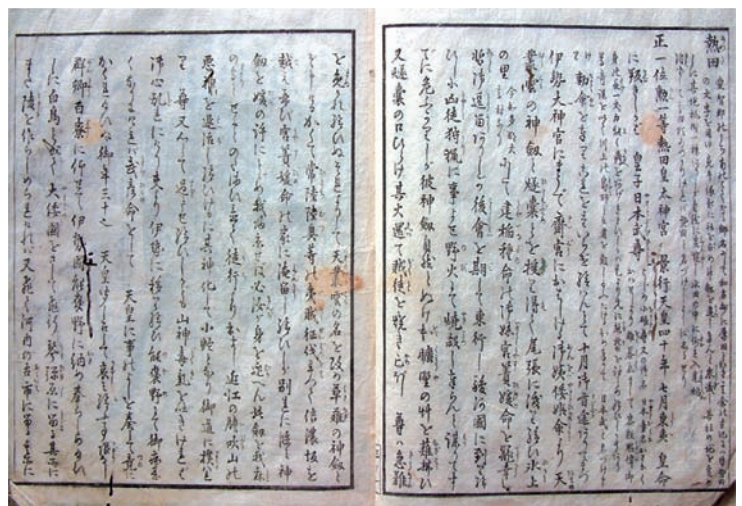
日本武尊にまつわる伝承は、今日も各地に残っています。市内大和町戸塚にも、「七つ石」とよばれる巨岩群があり、市指定文化財(昭和42年3月指定)となっています。

この「七つ石」は、江戸時代の人々にも知られており、『尾張名所図会』には、「日本武尊剣研石」という挿絵とともに、「研塚戸塚村にあり。村の中に巨岩多し。むかし日本武尊此所にて剣を磨ぎ給ひしといひ伝へ、研塚と名つけ、村名をもかく呼べり」とあります。



▲日本武尊剣研石  
(『尾張名所図会』より)

### ▼熱田宮と日本武尊についての記述(『尾張名所図会』より)



「七つ石」は、実際7つだけ存在するのではなく、およそ42㎡の狭い地に岩が18個散在しています。剣研石という伝承はさておき、これらの岩は古墳の石室用石材と考えられ、そのほとんどは、加工の跡も見られない硬質砂岩の自然石です(「一宮の文化財めぐり」)。

日本武尊の東征や七つ石の伝承などから、5・6世紀頃に大和朝廷の勢力が尾張周辺に及んでいたものと考えられています。

(一宮市博物館 坪内淳仁)

私達は、生田流宮城社の箏曲の会です。

「すみれ箏の会」は15年程前に名付けましたが、箏曲の会として皆様に知っていただきたくて、こだわって「箏」の文字を使っています。

平成19年に、名古屋市民会館で行われた「田村味智歌七回忌記念演奏会」には、4人の会員が参加しました。

会員の中には若い頃からずっと習っている人、若い頃から憧れを持ち続けて、熟年になって思い切って始めた人等がいますが、皆大変熱心で、月に4回のお稽古を休む人はほとんどいません。

主な発表の場は、3月の勉強会、11月の一宮市尾西歴史民俗資料館でのもみじまつり、一宮市尾西市民会館での尾西芸能祭、一宮スポーツ文化センターでの三曲演奏会です。

技能の段階に応じて、簡単な曲から難しい曲まで練習します。また、合奏練習もとても楽しいものです。

現在では立奏と言って椅子に座って演奏が出

来るので、長時間の正座をする事なく練習ができます。普段は個人レッスンなので他の人と比べたり、他の人に気を使うことなく、マイペースで練習に集中できます。

心の中に「やりたいな」を持ち続けている方は是非一步踏み出してください。

仲間になりましょう。



◀ 2009年3月勉強会記念

【問合せ先】原 はるみ ☎69-4545

北方俳句会は、自然に親しみ、心豊かに生きて行く喜びを詠むことを目標として発足し、35周年を迎えました。

俳句会は毎月第1水曜日の午後1時より北方公民館で開いています。各自5句を持ち寄り、それぞれ10句を選び、その中の1句を特選にします。選句に集中する静寂な時間は、日常生活にはない俳句の醍醐味でもあります。

特選になることは嬉しく、更に選んだ人の感想が自分の思いと同じであれば喜びもひとしおです。また、異なった感想を述べられますと、そういう考えもあるのかと参考になります。

春と秋は俳句の吟行会へ参加しますが同じ道を歩き、同じ物を見ても、同じ句はありません。泣いて仰げば月も泣き、笑うて見れば花も微笑むという古老の言葉のように作者の心の目で捉え心のひらめきを詠むからです。

また、芭蕉は「物の見えたる光、いまだ消えざらぬ中にいひとおべし」と言いました。これは右脳

の一瞬の働きといわれます。

お互いにボケと言われられないために、右脳を鍛えるよう頑張りましょう。

私は卒寿を迎えましたが楽しい北方俳句会で、歳は忘れてぼつぼつでもじつくりと、平明で深みのある俳句をめざして、天寿を全うしたいと思っています。

心豊かに楽しい人生をめざしている北方俳句会へお気軽にお出掛けください。



▶ 新年句会記念

【問合せ先】梶浦 さだ ☎87-1223

## 加入団体の紹介

### か ら っ かい 歌 楽 会

(社会文化部門)

歌楽会は、今より20年前に歌謡を通じて会員相互の親睦及び扶助を図ることを目的とし、歌を歌うことが大好きな人達が集まって発足しました。

今では、カラオケブームがあったお陰で、若い人からお年寄りまで、マイク片手に大勢の人前でも当たり前のように楽しんで歌っていますが、発足当時はなかなか人前で大きな声を出すことは勇気の要ることでした。私も長年の積み重ねでやっと人前に出て歌を歌うことが出来るようになりました。

当会は、毎年春には尾西グリーンプラザホールにて他の教室の人達と合同で発表会を開催しています。因みに今年は5月23日(日)を予定しています。秋には一宮市尾西市民会館で開催される尾西芸能祭にも参加をしています。会員の中には、自分自身の人生を作詞し、曲を作曲家に付けていただき、世界にひとつだけのオリジナルテープを作り、各会場で披露している方もいます。

また、練習会で気心の知れた人達と大きな声を出して歌うことは、日頃のストレスを解消し免疫力を高める効果があると言われていています。そして何より歌を歌うことは楽しいことだと実感できます。

二度とない人生だから、楽しく笑って日々を送りたいものです。是非一度お気軽にご連絡ください。お待ちしております。



尾西グリーンプラザにて

【問合せ先】大江 康弘 ☎62-0878

## 加入団体の紹介

### ばん どりゅう も も ぎ く かい 坂 東 流 百 喜 久 会

(舞踊部門)

坂東流百喜久会は、昭和45年に現在の尾西市民会館のこけら落としの時、出演させていただいたのをきっかけに発足し、今年で40年目を迎えます。

日本舞踊は400年程前、出雲の阿国より始まり、歌舞伎等様々な変遷を繰り返し、また舞踊も各流派に分かれ、現在の日本の伝統文化としての地位を確立しました。

私どもは、十代目家元坂東三津五郎先生の教えのもと、歌舞伎舞踊を中心に日々お稽古に励んでいます。

年中行事として、舞初め、ゆかたおどり、尾西公民館文化祭、尾西芸能祭への参加があります。また、家元が中部地方にお越しのときには、歌舞伎や舞踊を拝見するのも楽しみな行事になっています。

今年は、初心に戻り、若い人達と一緒に日本舞踊の基礎(お辞儀の仕方、腰の入れ方、小道具の扱い方等)を復習しつつ、若い世代の方々に日本舞踊を通じてマナーやその心を少しでも伝えていきたいと思っています。

自分自身の身体を動かして、表現する楽しさ、自分以外の役を演じることにより得られる喜び(変身願望)、踊りの素晴らしさを体験しにどうぞお気軽にお越しください。

老若男女、3歳から始まり、中学生や86歳の方まで幅広い年齢の方々が、毎週土曜日の午後1時より一宮市尾西生涯学習センターに集まり、心地よい汗を流しています。



稽古風景

【問合せ先】坂東 百喜久 ☎62-1974

# 文化情報



「教会への道」 高山 悟

## 《市および市内公共施設の催し》

**一宮市博物館**  
 ☎(46)3215

「書道芸術家 亀山雪峰の書芸展」  
 日時 ● 5月1日(土)～5月16日(日)

午前9時30分～午後5時  
 (入館は午後4時30分まで  
 以下同じ) 休館日5月6日、  
 10日

内容 ● 伝統書法を基に、時代に即した書〈彩色書〉を創作された書道芸術家 亀山雪峰氏の作品を展示します。

観覧料 ● 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

市内小中生・65歳以上無料

特別展「円空展」

日時 ● 5月22日(土)～7月11日(日)  
 月曜休館

内容 ● 日本各地を巡り、数多くの像を残した円空。その迫力あるすがたは、多くの人を魅了し続けています。県内に伝来する円空仏を中心に展示します。

観覧料 ● 一般 500円

高大生 300円

小中生 200円

市内小中生・65歳以上無料

**三岸節子記念美術館**  
 ☎(63)2892

常設展「三岸節子 花の旅」  
 日時 ● 4月6日(火)～7月19日(祝)

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで、月曜休館、以下同じ)

内容 ● 生涯にわたって描き続けた花の作品を中心に紹介。2009年に急逝した息子の黄太郎氏の作品も展示します。

観覧料 ● 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

市内小中生・65歳以上無料

6月19日(土)以降は特別展料金(要問い合わせ)

**尾西歴史民俗資料館**  
 ☎(62)9711

「美濃路探訪～春・尾張編～」  
 日時 ● ①5月9日(日)  
 午後1時30分～3時  
 ②5月23日(日)

午前9時～午後4時30分

内容 ● 江戸時代の主要街道美濃路について、歴史と現在の様子を現地実習で学ぶ講座。

申込み ● 応募期間中に資料館へ直接、またはハガキにて申込み。  
 (市広報でお知らせします。)

**一宮市民会館**  
 ☎(71)2021

名作シネマ「ディア・ドクター」とロビーコンサート(男声カルテットG5)

日時 ● 4月11日(日) 午後2時～  
 開場は30分前  
 入場料 ● 前売 500円  
 当日 800円  
 自由席・5才以下入場無料

「懐かしの歌声サロン2010  
 ～春のうた便り～」

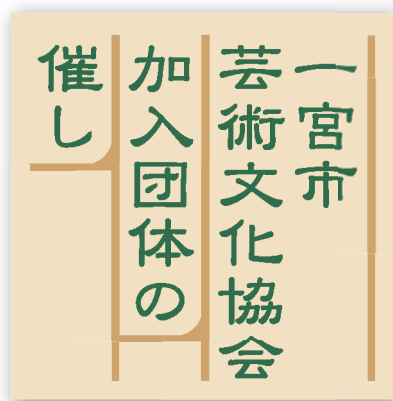
日時 ● 4月25日(日) 午後1時30分  
 ～ 開場は30分前  
 会場 ● 一宮市民会館 大会議室  
 入場料 ● 500円(自由席・お茶付) 未就学児入場不可

**一宮市尾西市民会館**  
 ☎(62)8222

名作シネマ「能登の花ヨメ」とロビーコンサート

日時 ● 5月22日(土) 午後2時～  
 開場は30分前  
 入場料 ● 前売 500円  
 当日 800円  
 自由席・未就学児入場不可

「ベー・チェ・エ・ソル テノールリサイタル～歌う喜び、生きる喜び～」  
 日時 ● 6月5日(土) 午後2時～  
 開場は30分前  
 入場料 ● 前売 3,800円  
 当日 4,000円  
 全席指定・未就学児入場不可



### 『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎72-17690

日時▼4月10日(土)・5月8日(土)・

6月12日(土) 午後1時〜

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により  
優秀作を記録に残します。  
(初心者歓迎)

参加料▼無料

### 『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎62-14654

日時▼4月11日(日)・6月13日(日)

午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作  
指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

### 『春の市民短歌吟行会』

日時▼5月11日(火) 午前9時〜

行先▼うすずみ公園 他

対象▼どなたでも

参加料▼2500円(食事つき)

申込み▼4月19日までに事務局

(84-0013)へ連絡

### 『石刀まつり』

【問合せ先 一宮民俗芸能連盟】

☎73-15221

日程▼4月25日(日)

会場▼石刀神社(今伊勢町馬寄)

内容▼山車からくり・献馬

### 『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎73-15504

日時▼4月25日(日)・5月23日(日)・

6月27日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼当季雑詠3句を一宮市民俳  
句教室委員が指導します。  
(初心者歓迎)

参加料▼無料

### 『春の市民俳句吟行会』

申込み▼当日直接会場

日時▼5月18日(火) 午前9時〜

行先▼新美南吉記念館 他

対象▼どなたでも

参加料▼2000円(食事つき)

申込み▼事前に事務局(84-000

13)へ連絡

### 『サロンコンサート』

〜さわやかコンサート〜

【問合せ先 一宮音楽家協会】

☎87-12827

日時▼5月9日(日) 午前11時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼一宮音楽家協会会員による  
演奏会

入場料▼無料

### 『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎45-18045

日時▼4月25日(日)・5月23日(日)・

6月27日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼自由吟および課題吟を一宮  
川柳社委員が指導します。  
(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

### 『第4回一宮新総合美術展』

【問合せ先 生涯学習課】

☎84-0013

日時▼6月10日(木)〜13日(日)

午前10時〜午後5時(13日)

(は午後4時30分まで)

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼日本画、洋画、彫刻・立体、  
工芸、デザイン、書、写真  
の作品展示

入場料▼無料

### 『一宮民吹奏楽団レインボーコンサート2010』

【問合せ先 一宮市民吹奏楽団】

☎44-19987

日時▼6月27日(日)

午後1時30分〜  
開場は30分前

会場▼一宮市民会館

入場料▼500円 前売400円

## 『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体のイベント情報を募集します。

発行月3・6・9・12月の前月1日までに、必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

**必要事項** ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場  
⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

**提出先** 〒493-8511 一宮市芸術文化協会事務局(住所不要)  
または FAX 0586-86-1809

# 平成21年の展示をみる

一宮市博物館、一宮市三岸節子記念美術館、一宮市尾西歴史民俗資料館では、本年度も市民の皆様幅広く美術、歴史の研究の成果をご覧いただけるよう多彩な展示会を開催いたしました。その中から次の展示会を振り返ってみたいと思います。

## 芥川紗織展

一宮市三岸節子記念美術館  
5月16日(土)～6月21日(日)



ユニークな画題を鮮やかな染色で表現した芥川(間所)紗織(1924～66)の初期から晩年までの作品を網羅した初の回顧展を開催しました。内面の叫びを奔放なイメージで表現した女シリーズや、日本の神話をテーマに壮大な創造力を展開した13mを超える大作、色面を大

胆に構成した抽象画などとともに、同時期に活躍した「制作者懇談会」のメンバーや女性前衛画家の作品も展示しました。期間中には芥川と親しく交流した画家の池田龍雄氏による講演会も開催しました。42歳の若さで早世し、これまであまり知られることのなかった女性画家の波乱に満ちた生涯と、苦悩や喜びとともに生み出された鮮烈な作品群をご覧いただきました。

## 牧進展 ―四季生―

一宮市博物館

10月10日(土)～11月29日(日)

「四季生図」と題された8枚組の襖絵が、妙興報恩禅寺に奉納されたのをきっかけとし、日本画家 牧進(1936～)の回顧展を開きました。15歳より川端龍子かわばたりゅうしの内弟子となり、薫陶を受け日本画家の道を歩み始め、青龍社解散後は、無所属と



して制作活動を続けています。作家川端康成は高い技術と美意識に目をとめ、感動を「牧進讃」として記しています。

四季の変化のなかで、花鳥風月や山川草木の本質を見出しつつ、写生を基本に、半世紀にわたり日本の自然の美に身を置き、「美しい日本」を写し出しています。初期から現在に至る牧進氏の作品64点を通して、さまざまな日本の美の魅力をご覧いただきました。会期中には美術評論家草薙奈津子さんによる講演会を実施しました。

## 特別展「美濃路を行き交う大名」

一宮市尾西歴史民俗資料館

10月10日(土)～12月6日(日)

朝鮮通信使や琉球使節、象の通行で知られる美濃路ですが、この街道を最も多く通行したのは参勤交代する大名たちです。今回の特別展では美濃路を通行する大名に視点を置き、通行大名の特徴や受け入れる本陣の対応を中心に紹介しました。休泊をめぐる大名と本陣との緊密なやりとり、「佐吾平事件」等、美濃路に残る大名のエピソードについて興味関心をもっていただけようです。美濃路に関する新たな事実が明らかになり、市内だけでなく、美濃路沿線にお住まいの方も多く来館していただきました。



[題字] 武山翠屋  
[編集・発行] 一宮市芸術文化協会

[連絡先] 一宮市芸術文化協会事務局(市教育委員会生涯学習課内)  
〒493-8511 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り27番地  
TEL 0586-84-0013 / FAX 0586-86-1809